

地域で取り組む「ジャンボタニシ」対策

～平成30年度 ジャンボタニシ防除対策モデル事業 取組結果より～

千葉県農林水産部 安全農業推進課

はじめに

ジャンボタニシ（和名：スクミリンゴガイ）は、水稻の苗を食害する貝で、九十九里地域の水田地帯を中心に被害が広がっており、それ以外の地域でも近年、新たな発生が確認されています。

防除対策は、水田での薬剤散布や冬季の耕うんなどを中心に行いますが、水路での越冬・水流による移動など、水田以外での増殖・発生拡大が懸念されています。

そこで、水路での卵や貝の駆除を行い、地域全体で被害軽減を図ることを目的に、平成30年度に「ジャンボタニシ防除対策モデル事業」を2地区で実施しました。



1 モデル事業の概要 [30年度]

- (1) 事業実施主体 土地改良区、農業協同組合、農業共済組合、農村環境保全を行う地域協議会
- (2) 予算額 1地区 60万円（上限）
- (3) 実施地区数 2地区 山武郡中央土地改良区(山武市)・千葉県干潟土地改良区(匝瑳市)
- (4) 対象取組 水路での産卵期の卵塊払落し、冬季の重機等による泥上げ及び貝の駆除、防除実施検討会の開催、水田取水口へのネット取付、水路の貝除去、効果的な防除方法の検討 等

2 モデル事業による取組結果

(1) 水路の卵の駆除

ア 山武市 実施時期 5～8月

実施回数 期間中14回（平均5日間隔）、
延べ人数48人（水路 約 1,600m）

- ・貝の数が多く、卵塊数が減ることがなく、作業間隔が1～2日の時も、かなりの数の卵塊が確認できた。
- ・軟らかいものは落とすのが難しく、潰して駆除した。
- ・水路に雑草が多く、駆除作業に時間がかかった。夏場の作業なので、労力負担が大きい。
- ・道具は、へら状の金属板と角材を使って作製。落とす・つぶす、どちらも作業しやすいように考案した。

イ 匝瑳市 実施時期 7～9月

実施回数 期間中14回（平均5日間隔）、
延べ人数58人（水路 約 2,090m）

- ・夏季は産卵頻度も多く、次の作業日には多くの卵塊を確認した。
- ・払落しの他、一部で捕殺を実施した。
- ・稲刈り後、水位が下がると、コンクリート面への産卵が少なくなった。
- ・卵の駆除だけでなく、貝の駆除用に道具を手作りした。





卵の払落とし(つぶし)の道具

写真左(右側) 金属板を加工したもの[山武]
(左側) 市販のフライ返しを竿の先につけたもの



貝の駆除の道具

写真右 市販の網を竿の先につけたもの[匝瑳]

(2) 水路の泥上げによる貝の駆除

ア 山武市 実施時期 1~2月

- ・約1m幅の水路のため、重機(バックホウ)が水路を跨ぎながら、作業した。
- ・水路幅が広くなると、大型の重機を使用することになり、作業時間・経費が増えることが予想される。

イ 匝瑳市 実施時期 1月

- ・水路幅や畦畔の地耐力、排水管(塩ビ管)の埋設などを考慮し、人力による作業を行った。重機による作業は、水路や畦畔の条件により検討する必要がある。作業は人員が必要なことから、短期に集中して実施。
- ・乾いた部分では、あまり貝が確認できなかったが、水のある部分では、貝の生息が確認された。



泥上げの様子

重機(バックホウ)による作業[山武]

(3) 事業効果

ア 水路の卵の駆除

貝の数が多いと、卵の駆除が追い付かなかったため、今後は、貝密度に応じた卵塊駆除を検討する必要がある。

また、水路周辺の除草など、効果的な作業を実施するための環境整備が必要であった。駆除道具はそれぞれ工夫し、使いやすいものを考案した。

イ 水路の泥上げによる貝の駆除

泥上げにより、貝も同時に掘り上げられ駆除されたことから、泥上げ前後で比較したところ、貝密度が約半分に低下した。貝密度が低下することで、来年度は、水路での産卵が減り、増殖・発生拡大が抑えられ、地域全体で被害軽減につながることを期待される。

3 今後に向けて

引き続き、モデル事業の効果を検証し、水田における防除対策(※)だけでなく、水路における対策も組み合わせて、地域ぐるみで取り組む効果的な防除対策を進めます。

※詳細は、県リーフレット(7つのポイント)を参考にしてください。

平成31年3月